

(その 165) 悩んだ末の相談でスッキリしました (2019年6月発行)

4月下旬、日進町に住むSさんが酔っぱらって所長の自宅へ「話を聞いてくれ」と見え
ました。

「妻は89歳で岩手県出身、自分は79歳熊本生まれで、年金は2人合わせて月26万円位、
子供がいないし兄弟も遠くにいますが疎遠になっているので何かあったら考えると心配
で夜も眠れない」と泣きながら話を始められました。

とりあえずその夜は帰ってもらい次の日の朝、所長がSさん宅を訪ね、昨夜の話を再び
聞くと「貯金はわずかしかなかくお世話をしてくれる人がいないだろうか」という相談でし
た。委任・任意後見・死後事務委任契約の3点セットを説明して「奥さんと相談してお
いてください」と話して帰りました。

連休明けの5月7日にセンターに来ていただいて、再度詳しく任意後見制度の説明をし
「信頼できる人がいなければ私が受任者になりましょう」と所長が後見人を引き受けて公
証役場で契約しました。

Sさんは「お金もないし恥ずかしくて誰にも相談できず悩んでいましたが思い切って相
談センターに駆け込み受け止めていただきようやく安心して眠ることができます」と、と
ても喜んでくださいました。